

Rep  
ort

# 身近な自然の観察・記録活動 石神井川緑道版

2022.9.8

一人ひとりの自主活動 だれでも参加できます

活動：月2回(第二木曜日・第四金曜日)10:00より(雨天中止)  
コース：帝京大学付属病院北詰・御成橋たもと → 金沢橋  
問合せ・連絡先：090-8646-9757 木村松夫 com-matchan@hotmail

9、10月の石神井川観察は、9/23(金)、10/13(木)、10/28(金)

9:30JR 社宅前街路の観察 10:00 帝京大学病院北側の御成橋たもとから再出発

## 掘り返された緑道はどうなるのか？



きれいにブロック敷きされた道路は「遊歩道」ではあっても「緑道」ではなくて「茶道」になりそうな気配

帝京大学附属病院前の緑道が掘り返され、車道側の側溝工事が進んでいましたが、9/8には緑道が通行止めになっていました。

どんな緑道に改修されるのか、どこにも案内

も表示もないので予想するしかないのですが、土が掘り返された部分を見ると、下左写真のように排水孔が施された縁石が設置されています(赤円で囲み部分)。すでに完成している同病院北側の新歩道(下右)と同じ構造。どうも、露地部分はなくなって茶色のブロックが敷き詰められるようです。完成したら、この道を利用する人は「きれいになった」「車いすも通りやすい」と歓迎するのでしょう。下手に露地を残すと、そこに生えてくる「雑草」の始末が大変だから、土をなくしちゃえば良いという管理者側の都合と野草を「雑草」としか考えない民意が重なって植物の緑はなくなって「茶道」。「茶道」といってもお茶をたてる文化ではなく「茶色の道」。





## 4月に完成した新歩道の植え込みは野草の天国、伸び放題

植栽されている樹木はサツキツツジとハナミズキですが、それがまったく目立たないほどに野草がたくさん生えています。いちばん背丈の高い草はオオブタクサ。秋の花粉症の原因の花とされているものですが、こうしてみると結構「みどり豊か」な歩道になっています。お役所も気を利かせて草刈りをやらないことにしたのかと思うのは早合点というもの。4月に完成したので、今年度予算にはこの街路樹の草刈り経費は計上されていないだけの話だと思います。

来年度になると、ここもまた下草刈りが行われて、成長する野草と、それを殺す人間との格闘の場になるのでしょうか。こういう無駄の繰り返し、何とかならないものかしら。

## 時期を選ばない剪定の結果

右の写真の上はベニカナメモチ。新葉が赤いのが特徴ですが、夏も終わりの今頃に新しい葉を出すとはどういうわけ？ 植物のライフサイクルを無視して盛りの時期に剪定を行うものだから、夏に新芽の出し直しをしているわけです。下の写真はドウダンツツジ。だいたい、夏の終わりごろになると翌年春に咲く花芽を付ける樹木が多いのですが、今頃剪定を行うと、せっかく成長を始めた花芽も刈り取ってしまうので「花の咲かないドウダンツツジ」になってしまいます。さらに、剪定が強すぎて新葉も出てこない半枯れ状態が目立ちます。痛々しい！



## それでも、命を燃やしている野の花

←メマツヨイグサの花にとまるヤマトシジミ マメアサガオ→  
ノシラン→

その他、ヒヨドリジョウゴやキツネノ

マゴなど、街中ではあまり見られない野草と、そこに昆虫などが蜜を吸いに来て、お互い支え合って生きている姿も残っているのが石神井川緑道です。

